

農林衛生院

国立公衆衛生院附属図書館



00018289

昭和六年四月

保健衛生調査會第十五回報告書

民移三三、一有言遊娘用器器者情
總會、農林衛生院改題(三頁)一、衛生院報告

衛生の普及(三七頁)
健康増進計画案(二九頁)



保健衛生調査會

P-A
15
17

例言

本篇ハ昭和五年四月ヨリ昭和六年三月ニ至ル本會議
事ノ概要ニツキ輯録シタルモノナリ

昭和六年四月

保健衛生調査會

国立公衆衛生院附属図書館	
受入先	松浦十四郎先生寄贈
受入日	'98. 3. 10
登録番号	72664
所在	
Library, National Institute of Public Health	

保健衛生調査會第十五回報告書

目次

第一章 職員	一頁
第二章 特別委員	五
第三章 議事	一〇
第一節 會議ノ回数	一〇
第二節 議案ノ件數	一〇
第三節 總會議事大要	一一
第四節 特別委員會議事大要	二四
一、衛生思想普及ニ關スル特別委員會	二四
二、民族衛生ニ關スル特別委員會	三三
三、農村衛生狀態改善ニ關スル特別委員會	四四

第一章 職員

委員會

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

委員長

番 番 番 番 番 番 番 番 番 番

安達謙藏

磐瀬雄一

永井潛

高野岩三郎

瀨川昌一世

三宅鏡一

林春雄

伯爵柳澤保惠

齋藤隆夫

大野綠一郎

富士川米次

宮川米次

(昭和六年三月三十一日現在)

十二番
十三番
十四番
十五番
十六番
十七番
十八番
十九番
二十番
二十一番
二十二番
二十三番
二十四番
二十五番
二十六番

次田大三郎
光田健輔
富田愛次郎
長與又郎
三田定則
内野仙一
岡村龍彦
北島多一
栗本庸勝
戶田正三
佐伯八郎
秦佐八郎
一宮房治郎
唐澤光德
矢作榮藏

二十七番
二十八番
二十九番
三十番
三十一番
三十二番
三十三番
三十四番
三十五番
三十六番
三十七番
三十八番
三十九番
四十番
四十一番

奥村鶴吉
西崎弘太郎
三宅秀
宮入慶之助
潮惠之輔
赤木朝治
横手千代之助
北山重信
栗山重信
栗津清亮
濱島幹六之助
龜田豐治
古瀬安後
岩住良治

四十二番

幹事

那須皓

伊藤武彦

白松喜久代

高野六郎

氏原佐藏

備考

長與又郎ハ昭和五年五月二十六日委員被仰付

三田定則ハ昭和五年五月二十六日委員被仰付

戸田正三ハ昭和五年五月二十六日委員被仰付

秦佐八郎ハ昭和五年五月二十六日委員被仰付

奥村鶴吉ハ昭和五年五月二十六日委員被仰付

栗山重信ハ昭和五年五月二十六日委員被仰付

岩住良治ハ昭和五年五月二十六日臨時委員被仰付

那須皓ハ昭和五年五月二十六日臨時委員被仰付

大島辰次郎ハ昭和五年四月十一日幹事ヲ免セラル

白松喜久代ハ昭和五年四月十一日幹事被仰付

高野六郎ハ昭和五年五月二十六日幹事被仰付

氏原佐藏ハ昭和五年五月二十六日幹事被仰付

第二章 特別委員

(昭和六年三月三十一日現在)

一、衛生思想普及ニ關スル件

特別委員長

委員

三宅秀

磐瀬雄一

永井潜

林春雄

宮川米次

内野仙一

北島多一

佐伯矩

一、都市衛生狀態改善ニ關スル件

特別委員長
委員

伯爵

- 唐澤光徳
- 奥村鶴吉
- 横手千代之助
- 宮島幹之助
- 柳澤保恵
- 高野岩三郎
- 北島多一
- 栗本庸勝
- 矢作榮藏
- 西崎弘太郎
- 潮惠之輔
- 横手千代之助

二、乳兒及幼兒ノ死亡率低減ニ關スル件

特別委員長
委員

伯爵

- 柳澤保恵
- 磐瀬雄一
- 高野岩三郎
- 瀬川昌世
- 北島多一
- 佐伯矩
- 唐澤光徳
- 三宅秀
- 潮惠之輔
- 横手千代之助
- 龜田豊治朗
- 古瀬安俊

一、民族衛生ニ關スル件

特別委員長
委員

北	磐	永	三	大	長	三	岡	赤	栗	岩
島	瀬	井	宅	野	與	田	村	木	山	住
多	雄		鏝	綠	又	定	龍	朝	重	良
一	一	潜	一	一	郎	則	彦	治	信	治

二、農村衛生狀態改善ニ關スル件

特別委員長
委員

伯

爵

柳	宮	栗	佐	唐	矢	西	赤	橫	宮	那
澤	川	本	伯	澤	作	崎	木	手	島	須
保	末	庸		光	榮	弘	朝	千	幹	
惠	次	勝	矩	德	藏	太	治	代	之	皓
						郎		之	助	

第三章 議事

第一節 會議ノ回数

特別委員會 總會	昭和五年												昭和六年
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	
計													計
	二	〇	一										

第二節 議案ノ件數

種類	議案種別		計
	既決	未決	
總會			二
特別委員會			四
計			六

第三節 總會議事大要

昭和五年十一月二十六日午後一時三十分内務省會議室ニテ開會

出席者 磐瀬、永井、瀨川、三宅(鑛)、柳澤伯、齋藤、大野、富士川、宮川、光田、富田、三田、内野、岡村、北島、栗本、佐伯、秦、一宮、唐澤、西崎、三宅(秀)、宮入、潮、赤木、北、宮島、龜田、古瀬、岩住各委員

伊藤、白松、高野、氏原各幹事

會長 代理(潮内務次官) 開會ヲ告ゲ併セテ本日ハ内務大臣ガ官中參内ノ都合上已ムラ得ズ欠

席セラルルヲ以テ命ニ依リ臨時ニ會長ノ代理ヲナス由ヲ述ブ

伊藤幹事ヨリ昭和五年四月一日以後ニ於ケル委員及幹事ノ異動ニツキ報告アリ

議事ノ經過

一、最初ニ第一號議案農村衛生狀態改善ニ關スル件ヲ議題トシ之ニツキ柳澤特別委員長ヨリ別項ノ通

リ報告アリ、之ニ對シ古瀬委員ヨリ寄生蟲ノ保有者ヲ如何ニ處理スルカノ質問アリ宮川特別委員ヨ

リ糞便中ニ在ル卵種ノ撲滅ヲ目標トシテ便所ノ改良ヲ行ヒ併テ感染者ノ治療ヲ行フベシト答フ次ニ

三宅秀並北島兩委員ヨリ本法案ニ國庫補助ノ規定アルガ日本全國ニ於テ眞面目ニ寄生蟲ノ治療豫防

ヲ行フトセバ相當多額ノ金圓ヲ要シ本員等ハ素ヨリ其ノ支出ヲ希望スルモ現下ノ財政状態ニ處シテ能ク之ガ支出ヲナシ得ルヤトノ質問アリ、赤木局長ヨリ現在有スル豫算ヲ以テ大體六分ノ一ノ補助ヲナシツツアルヲ以テ當分ノ間ハ現在ノ豫算ヲ以テ賄フノ見込ニテ本法案ノ附則ニモ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ費用ノ補助ヲ爲スベキコトヲ規定セル次第ナリト答へ次ニ永井委員ヨリ第四條ノ規定ノ運用ニツキ高野課長トノ間ニ質問應答アリ秦委員ノ動議ニテ特別委員長報告ノ通り可決確定ス

一、次デ第二號議案民族衛生ニ關スル件ヲ議題トナシ北島特別委員長ヨリ別項ノ通り報告アリ、之ニ對シ栗本委員ヨリ避妊ニ關シ如何ハシキ廣告ヲナスモノアリ之ガ取締ニツキ考慮セシヤ又避妊ヲ必要トスル場合之ヲ行フニハ産科婦人科ノ専門醫ニアラザレバ危険ノ伴フ虞アルガソノ場合多クハ醫師ガ素人カラ利用セラレテ名義ヲ貸シテ脱法的ノ行爲ヲナスヤウナルコトアリト思ハルルガ之ニツキ考慮セシヤトノ質問アリ委員長及赤木局長ヨリ此ノ規則ハ衛生上ノ危害ヲ生ズル虞アル物品ノ取締ガ主眼ニシテ廣告ノコトハ風俗保安ノ理由ニテ取締ルベキモノナルヲ以テ之ハ別個ノ問題ト考へタリ又醫師ナレバカカル器具ヲ大體使用シ得ル能力アルモノト考へタルガ不都合ノ所爲アルモノナリトセバ他ノ方法ニテ取締ルコトヲ得ルト考ヘル尙栗本委員ヨリ本則ノ取締ニ當ラシムベキ吏員ニハ能ク本則ノ趣旨ヲ了解セシメ運用ノ際批難ナカラシムルヤウニセラレタシトノ希望意見ヲ添へテ原案賛成ノ動議ヲ提出ス次ニ三宅委員ヨリ避妊ビン其ノ他參考器具ヲ見タシトノ希望アリテ栗本委

員ノ動議ニ賛成シ特別委員長報告ノ通り可決確定、午後二時四十分閉會

農村衛生状態改善ニ關スル特別委員長報告

第一號議案（農村衛生状態改善ニ關スル件）ニ付キマシテ委員會ノ經過並ニ結果ヲ申上ゲマス、本年ノ三月八日ノ保健衛生調査會總會ノ決議ニ依リマシテ農村衛生改善ニ關スル件並ニ民族衛生調査ニ關スル件ノ特別委員ガ出來マシテ是ガ五月三十日會長ノ名前ヲ以テ皆様ニ通知サレテ居リマス、私ノ關係シマストコロノ第一號議案ハ本年ノ六月二十五日、七月九日、七月十八日、十月六日ニ委員會ヲ開キマシタ其中七月十八日ハ大宮方面ニ實地視察ニ參ツタノデアリマス、斯ク四回會合致シマシタ結果御手許ニ差上ゲマシタトコロノ法案ガ出來マシタカラ、之ヲ茲ニ説明致シテ皆様ノ御賛成ヲ請ヒタイト思ヒマス。

コレヨリ審議ノ順序ヲ申上ゲマス、第一農村衛生状態ノ改善事項ト申シマシテモナガカ事項モ多ク、調査ノ方面モナカナカ手廣イ、先ヅ始メニ農村衛生改善事項ト云フモノニ付テ當局者トモ相談ヲ致シマシテ差當リ次ノ十六箇條ヲ擧ゲタノデゴザイマス、第一乳幼児健康増進、第二醫師産婆ノ普及、第三飲料水改善、第四住宅改善、第五便所改善、第六栄養改善指導、第七人體寄生蟲病及地

方病豫防、第八農村住民「トラホーム」豫防、第九農村住民結核豫防、第十農村住民眼疾患、皮膚疾患、齒牙疾患豫防、第十一農村住民花柳病豫防、第十二傳染病豫防、第十三農村住民ノ休養施設、第十四農村住民ノ清潔保持改善、第十五部落ノ家屋周圍清潔保持、第十六衛生思想啓發デアリマス。勿論是等ガ限定サレタ範圍トキメタ譯デアリマセン或ハ此外ニモ何カゴザイマセウガ、先ツ此十六項目ヲ舉ゲマシテ、之ニ付テドレカラ先ニ審議シヤウカト云フロトヲ相談シタノデアリマス、其結果先ツ急務ト信ズルモノ四ツヲ選ビマシタ、ソレハ(一)農村飲料水ノ改善、(二)農村便所ノ改善(三)農村人體寄生蟲病及地方病豫防、(四)農村民衛生思想啓發デアリマス、此等ノ内前ノ三者ヲ一括シテ攻究調査スルコトガ最モ急務ヲ要スルモノデアルト云フコトニ委員ノ意見ガ一致シタノデアリマス、尙ホ當局者ヨリモ之ニ付テノ説明ヲ承リマシタ、ソレカラ實地ノ視察トシテハ内務省デ設ケマシタ實驗所ガ大宮ニゴザイマスノデ、之ニ參ツテ詳細ニ見學致シタノデゴザイマス。

斯ノ如ク委員ニ於キマシテ項目ヲ決メマシテ審議ヲ致シ又實地ヲ見マシタ結果茲ニ寄生蟲病豫防ニ關スル法律案ヲ作ルコトガ最モ適切ナル方策デアルト考ヘタノデアリマス、原來寄生蟲ノ豫防撲滅ニ付キマシテハ從來各種ノ施設ガアルノデゴザイマスケレドモ、我國ノ如ク糞便ヲ肥料ニ用ヒ或ハ裸手跣足デ農耕ニ從事シ菜蔬ヤ魚介ヲ生ノ儘食フト云フ習慣ノアル所デハ寄生蟲ノ撲滅ハ容易デナイノデアリマス、ソレ故ニ統一シタコロノ豫防法ヲ作ツテ本病蔓延ノ根幹ヲ絶チ寄生蟲ノ撲滅ヲ

圖ルノガ最大急務ト思ヒマシテ、審議ノ結果之ニ關スル法案ヲ御手許ニ差上ゲタノデアリマス、此箇條ノ説明ハ御手許ニ御廻シシテゴザイマスカラ、先ツ大體ノ説明ノミヲ申上ゲテ置キマス、第一ニハ初メニ寄生蟲病ノ範圍ヲ決メマシタ、ソレハソコニゴザイマス通りニ蛔蟲病、十二指腸蟲病、住血吸蟲病、肝臟「ヂストマ」病、此四ツニ限リマシタ、無論此等ノ決定マデニハ色々意見ガ出マシタガ結局此四ツニ限ツタ理由ヲ申上ゲマス、御承知ノ如クニ此保健衛生調査會ニ於キマシテハ大正年度ニ於テ全國ニ對シマシテ代表的ノ地區九ヶ村ヲ選ビマシテ實地調査ヲシタノデアリマス、尙ホ其他ニハ各府縣ニ於キマシテ相當諸方面ニ亘リテ種々ノ調査ヲ致シタノデアリマスガ結果ハ大同小異デアリマス、本會調査ノ結果ハ其都度發表サレサ居リマスガ大正十五年五月十九日ノ官報附録(雜報一四七號)ニ調査地ニ於ケル寄生蟲病ノ割合ガ出テ居リマス、此時ノ住民ノ検査ハ九ヶ村デ一萬七千六百九十八人、其中ノ一萬五千七十二人ガ寄生蟲病者デ、即チ約八割五分ト云フモノガ何等カノ寄生蟲ヲ有ツテ居リマス、勿論是ハ農村ノ狀況デアリマス、都會地ニ於キマシテハ是レヨリ一割乃至二割位減ツテ居ル様デアリマスガ兎ニ角農村デハ斯様ナ狀況、ソレヲ蟲種デ分チマスト、茲ニ十種出テ居リマスガ重ナル分ノ「パーセント」ダケ申上ゲテ置キマス、十二指腸蟲ガ百分ノ二十八餘、蛔蟲ガ百分ノ六十九餘、鞭蟲ガ百分ノ五十六餘アトハ極ク少イノデアリマス、ソコデ今般ノ此法律案ニ於キマシテハ鞭蟲ガ入ツテ居リマセン、是ハ「パーセント」ガ多イノデアリマスガ、之ヲ委員

會デ除イタ理由ハ是ハ成程卵ヲ有ツテ居ルモノハ多イケレドモ、前二種ノ寄生蟲程身體ノ健康ヲ害スルコトガサウ多ク認メラレナイ、サウ云フ趣旨カラシテ五十六「パーセント」アル鞭蟲ヲ除イテ蛔蟲、十二指腸蟲ガ入ツテ居ル、肝臟「ヂストマ」ノ如キ住血吸蟲病ノ如キハ、ゴク少イ地方病デアルケレドモ、是ハ治療ノ最モ困難ナ病氣デアツテ豫防上一層ノ注意ヲ要スルト云フ譯デ是等ハ是非入レテ置キタイト云フノデ此四ツガ入りマシタ、此外「ヒラリヤ」病ヲ入レタラドウカト云フ御議論モ出マシタ、又他ノ色々ナ病氣ニ付テモ説ガ出マシタケレドモ、結局先ヅ今日ノトコロデハ此レダケニシテ置カウ、又此法律ガ出マシテモ必要ノ場合ニハ他ノ病氣モ入レルコトガ出來ルヤウニシタノデアルカラ、先ヅ是ダケニシテ、他ノ病氣ニ付テハ後日ニ讓ルト云フコトニナツテ、結局四ツニナツタノデアリマス即チ他ノ害毒アルモノニ對シマシテハ主務大臣ノ指定ニ依リマシテ本法ヲ適用シ得ル補充規定ヲ置クコトニ致シタノデアリマス

此豫防法案ハ三ツノ要綱カラ成ツテ居リマス、第一ハ患者ノ所在ト其症狀ヲ明カニスル爲ニ地方長官ヲシテ健康診斷ヲサセ又ハ糞便検査ヲナスコトヲ得セシムルノデアリマス、從來地方ニ於キマシテハ勿論糞便検査ヲ實行シテ居リマスケレドモ、是ハ強制ヲスルコトガ出來ナカッタノデアリマシテ故ニ國民ノ中デ之ニ對スル理解ヲ持タヌ者ガアルトキハ甚ダ不徹底ナ検査ノ成績シカ得ラレマセヌノデ法律ヲ以テ必要ニ應ジマシテ検査又ハ診斷ヲナシ得ルヤウニ決メタノデアリマス。

第二ニハ地方長官ヲシテ糞便其他寄生蟲病ノ蔓延ノ媒介トナルベキ物件ノ處置ニ付キマシテ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得セシメタコトデアリマス、糞便ノ處置ハ寄生蟲病問題解決ノ根本デアリマシテ、詰リ便所ノ改善ト云フコトガ最モ急務デアリマス、此糞便中ニ存スル寄生蟲卵ガナクナツテシマツタナラバ我國寄生蟲病ノ大部分ガ減ルノデアリマスカラ、其地方ニ適當シタトコロノ糞便處置ヲ命令シテ害毒ノ源ヲ斷ツヤウナ權限ヲ地方長官ニ與ヘタノデアリマス、寄生蟲病ノ中ニハ糞便以外ノモノニ依ツテ感染スルモノモアリマスカラ、其他ノモノデモ本病傳播ノ媒介ヲスルヤウナモノガアツタナラバソレニ關シテ必要ナル命令ヲ出シ得ルコトト定メタノデアリマス。

第三ニハ市町村ヲシテ地方長官ノ指示ニ從ツテ豫防施設ヲナシムルコトデアリマス、本病ノ豫防ハ個人ガ氣ヲ付ケルコトハ勿論デアリマスガ、又團體ノ協力ニ俟ツコトガ最モ必要デアリマスカラ諸般ノ豫防施設ニツキ地方長官ノ指定ニ從ヒマシテ適當ナル方法ヲ講ズル義務ヲ市町村ガ負フコトニ定メタノデアリマス。

此三ツノ實行ヲ容易ナラシムル爲ニ道府縣ノ補助及國庫補助ノ規定並ニ罰則ノ規定ヲ置イタノデ御座イマス、大體ノ説明ハコレダケニシテ置キマス、尙ホ専門的ノ説明ハ私ハ醫學者デアリマセヌカラ、其詳細ノコトハ専門委員ニ御尋ネテ願ヒタイト存ジマス、委員長トシテハ是ダケヲ申上ゲマシドウゾ御賛成ヲ仰ギマス。

第一號議案

糞ニ御附託相成候農村衛生状態改善ニ關スル件ニ就テハ審議ノ結果其ノ改善ヲ要スル事項多岐ニ涉ルモノアルベキモ差向キ別紙法案ニ基キ寄生蟲病豫防法ヲ制定スルヲ以テ適切ナル一方策ト認ム右及答申候也

昭和五年十月六日

農村衛生状態改善ニ關スル

特別委員長 伯爵 柳

澤

保

惠

保健衛生調査會々長 安達 謙藏 殿

寄生蟲病豫防法案

第一條 本法ニ於テ寄生蟲病ト稱スルハ蛔蟲病、十二指腸蟲病、住血吸蟲病及肝臟「ヂストマ」病ヲ謂フ

第二條 前條ニ掲グルモノノ外本法ノ適用ヲ必要トスル寄生蟲病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 地方長官ハ寄生蟲病ノ豫防上必要ト認ムルトキハ健康診断ヲ行ヒ又ハ糞便検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ健康診断又ハ糞便検査ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第四條 地方長官ハ糞便其ノ他寄生蟲病傳播ノ媒介トナルベキ物件ノ處置ニ付寄生蟲病ノ豫防上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第五條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ寄生蟲病ノ豫防ニ關スル施設ヲ爲スベシ

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ施設ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スベシ

第七條 北海道地方費又ハ府縣ハ第四條ノ規定ニ依リ糞便其ノ他ノ物件ノ處置ヲ爲ス者ニ對シ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第八條 國庫ハ前二條ノ補助ノ爲其ノ他寄生蟲病ノ豫防ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六ノ分ノ一ヲ補助ス

第九條 第四條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキモノトス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條ノ規定ニ拘ラズ國庫ハ當分ノ内寄生蟲病ノ豫防ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ

對シ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ費用ノ補助ヲ爲スコトヲ得

民族衛生ニ關スル特別委員長報告

御説明申上ゲマス、民族衛生ニ關スル特別委員會ニ於キマシテハ先ヅ民族衛生ニ關スル調査スベキ條項ヲ初メ色々考ヘテ見マシタ、例ヘテ見マスルト民族素質改善ニ關スル事項、優性及劣性遺傳ノ法則ニ關スル事項、不良素質者、惡質遺傳者繁殖防止方法ニ關スル事項、滅種方法實施ニスル各國立法例及其成績ニ關スル事項、人口、社會及保健問題トノ交渉範圍ニ關スル事項、産兒調節ニ關スル事項、國民體位ニ及ボス環境ノ影響ニ關スル事項、民族衛生調査機關設置ニ關スル事項、其他色々ナ民族衛生ニ關スル必要ナ事項ヲ調べルト云フコトデ調査ヲ進メマシタガ兎ニ角一番其中デ滅種方法ト産兒調節ト云フ事柄ニ付テ最モ議論ヲ交換シタ次第デゴザイマス、其中デモ産兒調節ト云フコトハ、今日ノ問題ニナツテ居リマシテ、之ニ付テハ世ノ中ニ宣傳的ノ色々ナ事柄ガアリマスノデ、此際産兒調節ノコトニ付キマシテ第一ニ相談ヲ致シマシタノデゴザイマス、尤モ此避妊ノ是非等ニ付キマシテハ更ニ調査ヲ致サナケレバナリマセヌノデ、ソレ等ノコトハ今日マダ解決シタト云フ譯デハアリマセヌケレドモ、今世ノ中ニ行ハレテ居リマスル避妊方法トシマシテ色々ナ器具藥品等ガ使ハレテ居ル、其中ニハ特ニ婦人ノ身體ニ對シマシテ極メテ有害ナ器具、譬ヘテ申シマスレバ避妊「ピン」或ハ子宮注入器、

サウ云フモノガ大分用ヒラレテ居リマシテ、其結果トシテ恐ルベキ病變ヲ起シタト云フ事例ガ相當アルノデアリマス、斯ウ云フ有害ナモノハ取締ヲナスコトガ今日ノ狀況ニ於テ必要デハナイカト云フノガ各委員ノ共ニ賛成シタ點デアリマシテ、是ハ此儘ニ放ツテ置クコトハ社會ノ爲ニ甚ダ面白クナイ、之ヲ先ヅ取締ラウデハナイカト云フコトノ考ヘニ一致ヲ致シタノデアリマス、ソレデ取締リノ法案ヲ一ツ作ラウト云フノ色々攻究セラレタ結果、茲ニ御手許ニ出シマシタコロノ案ガ出來上ツタノデゴザイマシテ、有害避妊器具取締規則案ト云フモノガ成立ツタ次第デゴザイマス、此案ハ飲食物其他衛生上有害物品ノ取締ニ關シテ明治三十三年法律第十五號、詰リ御手許ニ參考ニ出シテアリマスルモノニ依ツテヤルベキノガ相當デアラウ、第一條及第二條ニ基キマシテ避妊用器具ノ販賣若クハ授與、又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列若クハ貯藏ヲスルコトヲ禁ジャウトスル次第デゴザイマス、此飲食物ノ規則ヲ御覽ニナリマス、素ヨリ是ハ初メニ此規則ハ飲食物ヲ勵行シテ取締ル目的デ出テ居ル規則デアリマスケレドモ其他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生ズル虞アルモノト云フノデアリマシテ、必ズシモ飲食物及其利用器具ニ限ツテ居ルノデハナイト云フ解釋ガ出來ルノダサウデゴザイマス、之ニ依ツテ取締ルコトガ出來ル、斯ウ云フ次第デゴザイマス、而シテ此子宮注入器ノ如キモノハ元來醫者ノ使用スルモノデゴザイマスカラ醫者ノ使フノハ素ヨリ何モ差支ヘナイノデゴザイマスガ、之ヲ醫者以外ノ者ガ産兒調節ノ目的ニ利用シテ害毒ヲ生ズルト云フコトハ大變惡イコトデアリマスカラ之ヲ取締ルノガ

目的デアリマス、ソレデアリマスルカラ此法律ノ立前ハ御覽ニナル通リニ第一ニ避妊「ピン」第二ガ子宮注入器、其他子宮内ニ挿入スル器具、又子宮内ニ注入スル器具デナクテモ避妊ヲスルヤウナ道具ハ總テ現在分ツテ居ルモノニハ及ブデアリマス。第三ニ其他衛生上危害ヲ生ズルノ虞アル避妊用ノ器具ニシテ内務大臣ガ指定シタモノ即チ今日此外ノ名前デ以テ禁ジテ居ルモノデモ觸レルコトガ出來ルヤウニナツテ居ルデアリマス、而シテ醫者ノ方デ使フトコロノ醫療用ノ器具ト云フモノハ此限ニアラズト云フコトガ第一條ノ但書ニアリマシテ、醫者ノ使フノハ差支ヘナイト云フコトニシテアリマス、斯ウ云フ風ニ醫者以外ノ人ガ斯ウ云フモノヲ勝手ニ使用スルコトヲ止メヤウト云フノガ此取締規則ノ目的デゴザイマス、其他是カラシテ色々ナコトガ起リマスレバ是ハ法律第十五號ニ基キマシテ取締ルコトガ出來ル、斯ウ云フノデゴザイマス、取締ノ箇條ハ素ヨリ決リ切ツタル箇條デゴザイマシテ説明ヲ要スル程ノコトハナイト存ジマス、尙ホ又御尋ネガアリマシタナラバ私或ハ他ノ當局ノ方カラ御答ヲ致シテ頂クコトニシタイト思ヒマス。

第二號議案

曩ニ御附託相成候民族衛生ニ關スル件ニ就テハ其ノ調査施設ヲ要スル事項多岐ニ涉ルモノアルベキモ差向キ産兒調節ニ關スル事項ニツキ審議中ノ處特ニ産兒調節ニ使用スル有害避妊用器具ニツキ別紙草案ニ依リ之ガ取締規則ヲ制定スルノ緊要ナルヲ認ム

右及答申候也

昭和五年十月三十日

民族衛生ニ關スル

特別委員長

北島

多一

保健衛生調査會々長

安達謙藏殿

有害避妊用器具取締規則案

第一條 左ノ物品ハ之ヲ販賣若ハ授與シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列若ハ貯藏スルコトヲ得ス但シ第二

號及第三號ノ物品ニシテ醫療用器具トシテ醫師ノ用ニ供スル目的ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニアラス

一、避妊ピン

二、子宮注入器其ノ他子宮内ニ挿入スル器具

三、其ノ他衛生上危害ヲ生ズルノ虞アル避妊用器具ニシテ内務大臣ノ指定スルモノ

第二條 地方長官ハ前條ノ物品ニ關シテ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本

令ニ違反シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第三條 地方長官ハ本令ノ執行ニ關シ明治三十三年法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第四條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス
 第五條 營業者カ未成年者、禁治産者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本令ハ昭和 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

第四節 特別委員會議事大要

一、衛生思想普及ニ關スル特別委員會

昭和五年七月二十二日午前十時十五分ヨリ内務省會議室ニテ開會

出席者 三宅委員長

林、宮川、内野、北島、奥村、横手、各委員

赤木衛生局長、伊藤、白松、高野、氏原各幹事、南崎技師

議事ノ經過

委員長 開會ヲ宣ベ別紙議案ニヨリ順次附議スベキ旨ヲ述ブ

伊藤幹事 本年度實行豫算ヲ以テ多少ノ宣傳費ヲ支出シ得ルニ至リタルヲ以テ其ノ一部約二千圓ヲ支出シ來月初旬ヨリ東京三越ヲ會場トシテ「健康ノ展覽會」ヲ開催スベク目下局内ニテ準備中ノ旨ヲ述ブ

氏原幹事 會場タル三越ハ昨年國立公園展覽會場トシテ充テタル經驗ニ徴スルニ多數ノ入場者アル見込、殊ニコトサラ「展覽會」ヲ目當ニシテ來場シタル者ニアラザル多數ノ者ニモ自然觀覽ノ機會ヲ與ヘ衛生思想ノ宣傳上大ニ効果アルベシト述ベ次ニ別紙展覽會部門案ニ依リ各項ニツキ説明シ更ニ會期最初ノ數日間三越ホールニテ毎日二時間位宛衛生ニ關スル講演、實演、映畫、餘興等ヲ附帶シ行フコト及會期中説明者ヲ配置シ出品物ニツキ説明ヲナスベキ旨ヲ述ブ

委員長 會場費ハ要セザルカ

氏原幹事 會場費ノ要セザルハ勿論、出品物ノ製作及餘興ニ要スル經費モ相當三越側ヨリ支出ノ筈
 赤木局長 從來往々衛生ノ展覽會ニハ疾病ノ病竈ヲ模型ニテ表示セル不愉快ノ感ヲ與フルモノヲ見ルガ今回ハ此ノ類ノモノヲ避クル方針ナリ

伊藤幹事 今次ノ展覽會資料ハ閉會後地方ニ貸與ノツモリナルガ既ニ來ル九、十月神戸ニテ開設ノ海

港博覽會ニ衛生館ヲ附設スルヲ以テ其ノ館ニ貸與アリタシトノ申込アリ

與村委員 口腔衛生ハ如何ナルモノヲ出品スベキカ

氏原幹事 洗面所ニ附帶シ簡明ニ出品アリタシ

次ニ別紙健康週間要項ヲ附議シ伊藤幹事ヨリ一應ノ説明アリ、地方ニテ之ヲ實施スル場合ニハ時ト

シテ委員ニ出張講演ヲ煩ス場合モアルベキヲ以テ豫メ諒承アリタキ旨附加ス

北島委員 結核豫防協會ニテ年々主催スル結核豫防週間ト此ノ健康週間トハ別個ノモノトシテ考ヘテ

ヨキヤ

伊藤幹事 然リ

伊藤幹事 健康ノ展覽會及健康週間ハ何レカト云ヘバ都市向ナルモ農村向ノモノトシテハ目下農村巡

回展覽會案及農村ノ模範衛生施設ヲ映畫ニナスベキ案ニツキ講究中ナレバ成案ヲ得タル上更メテオ

諮リ致シ度シ

次ニ小冊子及衛生讀本ニ關スル件ヲ議題トシ伊藤幹事ヨリ數年前ヨリ世上ニ公表シタル關係モアリ

且必要ノモノナレバ及ブ限リ速ニ出來上ルヤウ致シ度シト述ベ審議ノ結果更ニ促進スルヤウ執筆者

ニ依頼スルコトニ決ス

委員長 「健康展覽會」ニ際シ既刊小冊子ノ頒布及廣告ヲ圖ルベシトノ希望アリテ各員賛成ス

伊藤幹事ヨリ先般本特別委員ヲ委嘱セラレタル與村鶴吉氏ヲ紹介ス、午前十一時四十五分散會

健康ノ展覽會部門別案

内務省衛生局主催

- 一、保健ト整容（清潔、整容、口腔衛生）
- 一、榮養ト食糧（榮養、肉乳、清涼飲料水、嗜好品、氷、臺所）
- 一、被服類ノ衛生（衣服、帽子、靴、寢具）
- 一、溫泉、冷礦泉及入浴（溫泉場、礦泉、風呂）
- 一、水ト淨化（飲料水、井戸、水道、洗濯、排水、下水道）
- 一、汚物處理（塵芥、尿尿）
- 一、住宅ノ衛生（採光、換氣、冷蔵）
- 一、照明及燃料（瓦斯、電氣、燃料、採光）
- 一、酒ノ害（人生ノニツノ途、食糧品消費ノニツノ途、酒ノ害）
- 一、母性及小兒保健（産前、産褥、及産後ノ保護、乳幼児保護）
- 一、自然療養ト身體鍛鍊（空氣療養地、登山、野外休養、海水浴、スポーツ）

- 一、遺傳ト民族衛生（遺傳解説、民族衛生的施設）
- 一、衛生ト迷信（人類史ニ於ケル衛生ノ發達、衛生ト迷信）
- 一、保健ト疾病（結核、花柳病、トラホーム、其ノ他ノ傳染病、消毒、寄生蟲、衛生上有毒ナル昆蟲類）

會 期 八月五日ヨリ同月二十五日迄
會 場 東京日本橋三越西館四階及東館七階

健康週間計畫案

- 一、主催者及開催地 主催者、廳府縣及市、開催地ハ先ヅ道廳府縣廳所在地ノ市ニ於テ行ヒ漸次地方ニ及バシムル方針トス
- 二、經費支出箇所 縣市、衛生會（協會）、赤十字社支部、愛國婦人會支部、町會、衛生組合、醫師會、齒科醫師會、藥劑師會、結核豫防會、産婆會、看護婦會、商工會議所又ハ實業組合、有志等
- 三、參加團體 經費負擔團體ノ外青年團、在郷軍人會、青年訓練所、運動團體、處女會、工場、學校教育會、少年團、宗教團體等

四、會期 成ルベク九月ヨリ十一月迄ノ期間ニ於テ土地ノ狀況ニ依リ適當ノ時期ヲ選ビ三日乃至七日間トスルコト

五、實施前ノ準備

- イ、參加團體トノ協議
- ロ、新聞、通信社等ト聯絡交渉
- ハ、ポスター其ノ他ニ依ル衛生總動員運動ノ宣傳
- ニ、プログラム作製

六、實施事項ノ大要

- イ、保健衛生市民大會開催、主催者挨拶、祝辭、申合セ又ハ宣言、名士講演等
- ロ、縣下衛生組合大會
- ハ、衛生展覽會ノ開催、衛生資料ヲ陳列シ無料公開ヲナスコト
- ニ、巡回講話、中等學校以上ノ男女生徒、小學校同窓會、少年團、處女會、婦人會、産婆會、看護婦會、運動團體、青年團、在郷軍人會、商工業従事員等ニ對シ適宜數ヶ所ニ分レ晝間、夜間、晝休ミ等ヲ利用シ通俗講話ヲナスコト
- ホ、小學校ノ衛生訓話、當日校長ニ委囑シ衛生訓話ヲナサシム
- ヘ、衛生相談所、會期中一般衛生又ハ結核、花柳病、トラホーム、口腔衛生等ニ關スル相談所ヲ開

設スルコト

ト、模範的母性及小兒相談所、ナルベク保健衛生調査會決議ノ指針ニヨル組織トシ豫メ訓練シ置キ
會期中模範的ニ實施スルコト

チ、寄生蟲検査所、會期中開所スルコト

リ、體力検査所、路傍ニテ検査シ得ルヤウ設備ス

ヌ、運動競技大會、會期中適當ノ時期ニ於テ計畫スルコト

ル、印刷物ノ販賣又ハ配布、街路ノ辻々ニ天幕等ヲ立テパンフレット實費販賣、リーフレット無料

配布

ヲ、衛生マーク又ハ花賣リ

ワ、衛生一善主義實行、町衛生組合又ハ町會等ノ決議ニヨリ家庭、工場、學校等ニ於テ衛生上一ツ

ノ善事ト認ムルコトヲ實行スルコト、例ヘバ蠅取、蚊取、清潔、汚物掃除、便所掃除消毒、ドブ

サラヘ、街路、公園等ノ公德等ヲ勵行セシムルコト

カ、保健衛生活動寫眞、會期中適當ノ時期ニ無料公開スルコト、常設活動寫眞館ニ交渉ノ上フキル

ムヲ提供シ映寫セシムルコト、衛生劇、適當ナルモノアラバ之ヲ利用スルコト

ヨ、衛生標語ノ利用、一般ヨリ懸賞募集ニヨル標語ヲ郵便スタンプ、店頭掲載、揭示場揭示、廣告、

廣告マツチ利用等ニ依リ徹底セシムルコト

タ、ラヂオ利用、會期中適當ノ時放送局ト交渉ノ上行フコト、其ノ他、土地ノ狀況ニ依リ適當ナル

事項ヲ實施スルコト

七、隣接府縣及市衛生課長打合會

會期ニ先タチ之ヲ開催シ保健衛生事務ノ打合セラナシ引續キ共ニ當該地方ノ健康週間事業ニモ參加

應援スルコト

小冊子ニ關スル件

題 目

寄生蟲の驅除

調理と食べ方

早老の豫防

食物と健康

睡眠と休養

皮膚の鍛錬又は冷水浴の話

執 筆 者

宮 川 委 員 (昭和五年七月 脱稿)

佐 伯 委 員 (未稿)

下 田 博 士 (昭和三年三月 十五日刊行)

大 森 博 士 (未稿)

杉 田 博 士 (同)

林 委 員 (同)

癌の話	長與博士(同)
婦人の衛生	磐瀬委員(同)
小兒の傳染病	唐澤委員(同)
育兒の話	瀬川委員(同)
飲み水の良し悪し	横手委員(同)
乳と肉	津野博士(同)
食べられる茸と食べられぬ茸 <small>(毒な茸と食べられる茸と改題)</small>	川村博士 <small>(昭和二年十月五日刊行)</small>
温泉の話(温泉療法と改題)	藤浪博士 <small>(昭和三年六月一日刊行)</small>
優生學の話	永井委員(未稿)
日光浴の話	正木博士 <small>(昭和三年十二月二十日刊行)</small>

衛生讀本ニ關スル件

題目	執筆者
第一編 生命と自然界	永井委員 <small>(昭和四年九月一日刊行)</small>
第二編 榮養と嗜好	佐伯委員(未稿)

第三編 住居と被服	横手委員 <small>(大正十四年十月十五日刊行)</small>
第四編 活動と休養	永井委員(未稿)
第五編 保健と鍛鍊	永井委員(同)
第六編 保健の障害	宮島委員(同)
第七編 民族の將來	三宅委員(同)

(備考) 榮養と嗜好は昭和六年二月一日刊行

一、民族衛生ニ關スル特別委員會

第一回

昭和五年六月二十四日午後一時四十分ヨリ中央會議所ニテ開會

出席者 北島、磐瀬、永井、大野、長與、三田、岡村、赤木、栗山、岩住各委員
 伊藤、白松、高野、氏原各幹事、南崎、櫻田、内藤各技師
 議事ノ經過

伊藤幹事 議事ノ進行上委員長ヲ選定セラレタシト諮リ岡村委員ノ動議ニテ一同北島委員ヲ之ニ推舉